

第127号



学校教育情報・堺

平成 20 年 8 月 5 日
【企画・編集 学校教育部】

学校評価の充実に向けて

—「学校評価の充実・改善のための実践研究事業」より—

本年度より各学校園においては、学校評価を進めていくにあたり、評価項目の設定、適切な評価方法等についての様々な課題を抱えながら、効果的な学校評価の取組について実践されていることと思います。今年度はこの学校評価の充実に向けて「**学校評価の充実・改善のための実践研究事業**」の研究について、6小学校、4中学校で、実践を進めています。すでに実施しました第2回研究協議会では、各校で様々な課題について研究討議しました。

研究校での課題

- ・子どもや学校のよさを生かすための評価項目の設定について
- ・信憑性する評価方法について
- ・子どもの変容がわかる評価方法について
- ・教員全体の意識の高揚を図ることができる学校評価について
- ・保護者や評価者に学校の意図をしっかりと伝える発信方法について
- ・具体的に推進していくための校内組織体制や運営方法について
- ・それぞれの評価材料〔資料〕の総括の方法について

本事業では、本市の学校評価をより充実したものにするために、3人の大学の先生方と3人の元校長、元PTA会長、学校協議員の方々を評価委員として、指導助言をいただいております。学校関係者評価の視点からも指導助言いただくために、評価委員として指導助言いただいております。

指導助言

大阪教育大学 田中博之教授 神戸大学 山下晃一准教授 兵庫教育大学 大野裕己准教授
吉年純子評価委員（元中学校長） 末吉正典評価委員（元PTA会長、学校協議員）
勝田順子評価委員（学校協議員）

第2回研究協議会における指導助言の概要を掲載しますので、各学校園での学校評価推進のための参考としてください。

指導助言の概要

【学校評価をはじめるとあって】

- ・大切にしてほしいのは、今求められている学校評価の本質を知ってもらうことである。
- ・学校評価に取り組むことは、あくまで学校改善に向けて、現状から一歩先に進めるものであり、しっかりアピールし、がんばりを認めてもらうことが必要である。学校評価は、学校と地域とのコミュニケーションをよくするものである。
- ・項目の中で重み付けをすることは、保護者にアピールすることであり、評価者を育てることにつながる。重み付けをした項目では、評価の方法として、保護者、教員、子どもの満足度など、複数の観点で見えていくのもよい。

【子どもを育てるための学校評価について】

- ・子どもの育ちや子どもの姿を中心に置いて評価していくことの意義は大きい。
- ・学校評価も、相対評価から、目標に準拠した評価〔絶対評価〕として考えていくことが大切である。
- ・子どもの姿を通して、保護者や地域との関係を変えるきっかけになる。

【学力向上の視点から】

- ・学習習慣、生活習慣を高めるためのスローガンが、学校評価の計画に生かされることが大事である。これらが高めることが、具体的方策・成果物・子どもの行動目標（家庭や子どもにわかりやすい行動目標をつくる）につながり、これらが評価の成果として生きてくる。
- ・少人数や習熟度など、形態を取り入れただけでは、効果があがるかは疑問であり、表現力、思考力等の育成について考えていくことが必要である。朝の読書においても、10分間読書ができるようになったら、調べ学習や他の作品を読むなど、読書を核とした学校改善・向上へ取り組んでいくことが大切である。

・項目を絞り込むことで、教員が力を入れやすくなるのではないかな。様々な意見は参考にするとよいが、どのように改善していくかということは学校が考え、実行していくことである。

・公立学校のよさは、地域があることである。これを学校評価で生かしてほしい。
・学校が自己評価するだけでも、教職員の資質は向上していく。また、学校関係者が評価することで、次への課題を見出していくものとしていくとよい。

- ・単年度で学校関係者に見えるようにするのは難しい。今年重点を明確に打ち出し、学校にかかわってもらうことが、適切な学校関係者評価につながる。公開だけではなく、伝達することが必要である。
- ・学校関係者評価は、自己評価を正當に評価してもらうためのものである。

英語教員指導力向上研修事業

カリフォルニア大学で研修が始まりました!!



今年度から、英語の授業改善をめざし、英語教員指導力向上研修事業を実施しております。7月27日～8月25日の約1ヶ月間、本市の英語教員15人がカリフォルニア大学アーバイン校で、指導法や英語力向上のための研修を行います。

7月27日に関西国際空港から出発し、28日から授業改善に向けての研修が行われています。研修状況については、「UCI便り」として、カリフォルニアから随時学校教育部のホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。